

**新製品開発におけるフロント・エンド・ローディング  
“ビジネス転換させる千載一遇のチャンス-考える力を引出すDX化”**

— ビジネスモデルの再編と連動体制 —  
(株) ジョンケイルコンサルティング 落合以臣

**Front-end loading in new product development  
“One chance to transform our business-  
DX conversion that draws out the power of thinking”**  
- Business model reorganisation and interlocking system -  
Shigemi Ochiai, Jonquil Consulting Inc.

**Keywords**

組織風土・改革・道具立・業績・構造・考える力・人間力・創造・テーマ・DX化  
*Organisational culture, innovation, tooling, achievements, structure, thinking ability,  
human power, creation, theme, DX conversion*

**業績優先と考える力の減退**

過去の記憶を辿れば、企業発展に欠かせない方法として、組織風土改革という言葉が台頭したことを思い出します。この言葉がもてはやされたときは、企業を支える人々に考える力がなくなってきた、あるいは考える力を発揮させる場所を企業自身が閉ざしているという背景があったからと言えます。あれから10年を経た今、まさに組織風土改革と言いますより、働く人々の考える力、叡智とでも言いましょうか、自主的な働きがビジネスモデルを大きく転換させることができると言えるでしょう。言い換えますと、人ひとりが自身の手で課題の解決ができる、そのためにDX化を推進するという両輪の構造が必要であると思います。

このようなことに鑑みますと、考える力を引出す方法、そのための道具立をDかと述べましたが、ではDX化がどのようにすれば考える力を引出す役目を果たすことができるのでしょうか。それは、ここ10年の間、国際会計基準に合わせるあまり、業績を優先しすぎた「つけ」が、人々の考える力を喪失させたと言っても過言ではないでしょう。言い換えますと、コスト管理を極限まで追求するために投じた過大な施策が、働く人々にできない重荷となって押しつぶさり、その結果、やる気をなくさせ精神的な問題を抱えさせることになったと言えます。

**ビジネス転換させる千載一遇のチャンス-考える力を引出すDX化**

2022年現時点でのビジネス環境を見渡しますと、2019年10月から発症した新型コロナウイルス、そして新変異株オミクロンなどが、世界のあらゆる構造を壊したと言っても反対する人は少ないでしょう。そうであれば、ビジネスを転換させるための千載一遇のチャンスが到来させたとも言えます。在宅勤務も定着しつつある状況の中で、考える習慣を身に付けることであると言えます。その習慣を支える道具が、DX化であると言いたいところです。今までの企業運営を通して蓄積してきたデータをDX化として捉えるのではなく、その蓄積されてきたデータと未来予測をもとに創造されたテーマとでもいいましょうか、それをマッチングさせた時に、何が足りなく何を補えばよいのか、この隙間とも言うべきニッチな部分を人間力によって補うという仕組みであると言えます。それが、まさに未来志向を可能にするDX化であると言えます。

よく新型コロナウイルスの発症で、世界はまったく変わってしまったと言われる。しかしながら、その変わったことに、どのような方法を持って対処をしていけば良いのかという具体的な方法については、残念ながら答えを持っている人は少ないと言えます。それは預言者ではないので、10年先と言いますより1年先がわからないからということの裏返しのように思えます。逆に言えば、それらを隠れ蓑にして、先を考えることをしない、したくないということと同じであると言えます。なぜならば、考えると言う行為は、かなりの労力を要しますが、唱えているだけで済むのであれば、こんな楽なことはないからです。

しかしながら、好き嫌いに問わず世の中が新たな構築期に突入したのは事実です。この創世期とも言える時代に力強く生き延びて行くためには、人間力の回復が重要な要素になり、その裏側にあるのが考える力、それを支えるのが未来志向を醸し出すDX化であると言えます。